

ヒマラヤ産ウバユリ及びコンロンカの分布域の現地調査とそれらの薬理活性試験結果と生育環境との相関及び生育適地評価への応用 1160266 箭野皓大

Field research in Nepal about distribution area of *Cardiocrinum giganteum*(well.) Makino and Musssaenda sp. as well the result of those reaction of pharmacological activity and evaluation of suitable place. Kodai Yano

渡邊研究室の成果として、近年高知県産ウバユリにはアンジオテンシン II 阻害活性があることが解明され、研究室内の大学院生らにより抗血圧作用を有する含有成分の構造解析を急いでいる。ウバユリ属植物 *Cardiocrinum* は、日華植物区系に属する日本とネパールの両国に生育しており、日本産ウバユリより形態的に大きく、採集した際の収量も大きい。そこで私は、「トビタテ！留学 JAPAN」という制度を活用してネパール・ポカラ大学へ留学し、ヒマラヤ産ウバユリとコンロンカについてネパールの主要な生育地で、植物インベントリーを実施した。採集した試料を所属研究室に送り、抗酸化試験及びアンジオテンシン II 阻害活性試験による *in Vitro* 評価を行った。また、現地調査の際に生育地の GPS データも集積し、QGIS を用いてヒマラヤ産ウバユリ及びコンロンカの分布図を作成した。最後に得られた試験結果と作成した分布図からヒマラヤウバユリとコンロンカの生育適地を評価した。